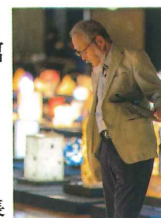


# 第30回 美濃和紙あかりアート展入賞作品

審査員 一般部門 古川 秀昭 審査委員長・前岐阜県美術館館長 小中学生部門 橋田 裕司 照明デザイナー  
堀木 エリ子 和紙アートディレクター 日比野 光希子 アーティスト  
高橋 理子 アーティスト 松井 勲尚 元岐阜県立森林文化アカデミー教授  
柴崎 幸次 愛知県立芸術大学教授

審査日 2023年10月7日(土)  
美濃市体育館



古川秀昭審査委員長

## 総評

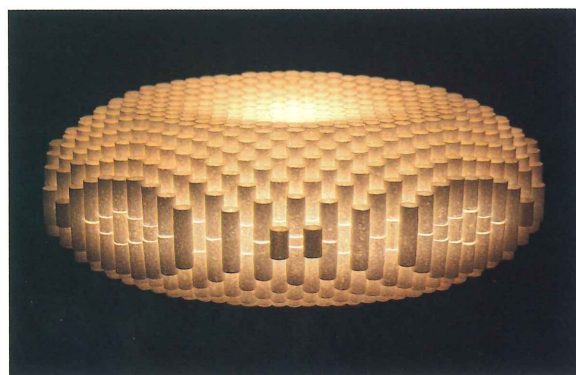
### 一般部門

第30回も質の高い作品が多く、賞選考も張り合いがあった。コロナ禍であっても本来、作品制作は孤高の中でのこと、いい作品が仕上がるのは当然なことか。大賞の後鳥さんの作品は特に目新しさはないのだが、おらかな形の中に和紙ならではの造形と何より光の効果が美しい。アート賞には逆に新しい表現技法がみられ、入賞作品全て秀作ぞろいである。和紙にはまだまだ新しさが秘められていると教えられる。(古川)

## 総評

### 小中学生部門

猛暑日が観測史上もっとも多い夏でした。そんな夏休みを、あかりアートのための制作に費やす皆さんの頑張りに敬意を表します。30回を重ねた「美濃和紙あかりアート展」です。改めて「美濃和紙」と触れ合いながら「あかり」として自由に表現する楽しさ、その「工夫」と「想い」を今回は特に中学生の作品に感じることができ、可能性を感じました。(松井)



### 美濃和紙あかりアート大賞

作品 No.26  
作品名『光の入物』  
後鳥 勝則

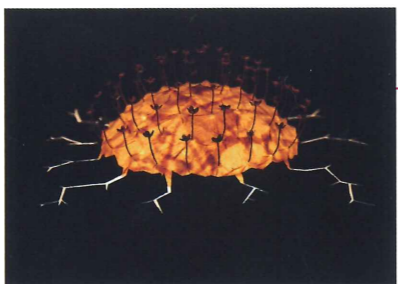
後鳥さんの大賞は最初の審査で満票を集め文句なしの受賞となった。多くの作品の中で、後鳥さんの「光の入物」が特別な目新しさがあったわけではない。ただその全体のおらかな形体と内側からの光による和紙の特質の現れ方が絶妙である。(古川)



### 美濃和紙あかりアート賞

作品 No.27  
作品名『ハナタバ』  
和田 俊一

ハナタバというタイトルから花をモチーフにした作品なのだろうか。透かしのパターンが入った和紙を選んだことが、さらに複雑な光の陰影をもたらしている。台も金属の細い足で作っており、浮き上がって見えるところも美しさを探求している。(柴崎)



### 美濃和紙あかりアート賞

作品 No.134  
作品名『芽吹ク』  
イソノ レイコウ

自然に対する畏敬の念や命への祈りの心が和紙の灯りに込められており、力強く芽吹く小さな花の命が愛おしく感じられる作品。和紙の温かさに生命力が宿るような印象で、見る人に元気を与えてくれる作品である。(堀木)



### ライトアップ賞 <古川秀昭賞>

作品 No.65  
作品名『不完全』  
牧岡 那真(拓殖大学)

「不完全」という「完全」を越える響きのあるタイトルもすばらしい。和紙の持つ特質、とりわけやわらかさと透明感を活かす造形感覚が作品の強さになっている。また明かりがついても消されても、それぞれにまるで台風のような凄みを内に秘められている。



### ライトアップ賞 <堀木エリ子賞>

作品 No.175  
作品名『朝霧』  
藤居 航(名古屋芸術大学)

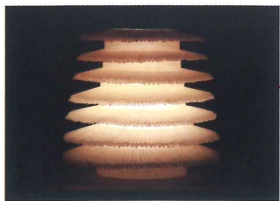
美濃和紙の柔らかさ、強さ、透光性などの特性がシンプルに表現されている作品。積み重ねによる光のグラデーションや、揉み和紙の陰影、積み重ねた和紙の隙間から漏れる光の美しさが際立ち、素材本来の魅力が伝わった。



### ライトアップ賞 <高橋理子賞>

作品 No.140  
作品名『紙の束』  
大矢 伸治

紙系ならではの張りのある質感が、緊張感を持ちながら、かつ自然でリラックスしたフォルムを作り出している。シート状の美濃和紙から作られる作品とは異なる新鮮な表情に魅力を感じた。



### ライトアップ賞 <柴崎幸次賞>

作品 No.18  
作品名『七重塔』  
安田 武博

美濃和紙を筒状に丸めて軽くつぶし、連続的に配置し、七重の塔を描くように組み上げた作品。連続的な紙の重なり陰影が美しい。構築物のような造形で、光源も適切でありバランス良く光っている。丹念に作られた作品である。



### 小中学生部門大賞

作品 No.609  
作品名『和紙の鷺』  
加藤 篤人

鷺の力強い造形と、和紙の持つ柔らかさが見事に融合した作品です。色付きの落水紙を貼り重ねることで、ふわふわした羽の雰囲気がよく出ており、淡い色の和紙を選んでいるので幻想的な光が広がって、空想の世界へ引き込まれていきそうです。羽根の形がV字でボリュームがあるため、光が端まで届きあかりとして素晴らしいです。(橋田)



### 小中学生部門賞 <橋田裕司賞>

作品 No.627  
作品名『やきいも』  
藤吉 菜瑛

とにかく美味しそう。皮の感じもよくできていますが、中身のトロっとした表現は秀逸です。和紙でこんな表現ができるんですね。ザルの裏から少し光を入れると、やきいものシルエットがもう少し出るのでもっと良くなると思います。ごちそうさまでした。(橋田)



### 小中学生部門賞 <松井勲尚賞>

作品 No.653  
作品名『心の花』  
中川 喜由

白い和紙に、ブルーの淡い光が美しい。青い和紙を間接的に使用したところが「あかりアート」だからこの表現であり、一輪をバランス良くまとめた素晴らしい作品である。「作者は心にどんなことを思い描き、日々暮らしているのだろう。」青い薔薇の花言葉は「夢かなう」だそう。大変な時代だからこそ、応援の光の花として、人々の心に届くことを願います。



### 小中学生部門賞 <日比野光希子賞>

作品 No.658  
作品名『ゆったり泳ぐウミガメ』  
中濃特別支援学校 中学部 3年②

海の中を気持ち良さにゆゆうと泳ぐウミガメの姿が心地良く届く、魅力的なあかりです。和紙が幾層にも重ねて貼られ、その和紙の重なりを通して届く光は、深く複雑な大海のキラメキとなって私たちを包んでくれます。

## 入選

### <一般部門>

- 『夕凧』村瀬 五郎
- 『HONOKA』尾関 万紀
- 『宝珠』☆夢宙屋
- 『陽光』倉橋 豊
- 『ヒカリノスミカ』小川 克憲(オガワアトリエ)
- 『リンク』高柳 由美子
- 『和So』宮下 毅
- 『風の形』小堀 竣哉(拓殖大学)
- 『環』小松 花純(拓殖大学)
- 『波』ぼうりんぐ(拓殖大学)

- 『ふにゃふにゃ』加納 英香
- 『息』金 塚希
- 『まりあかり』Atelier Tad
- 『これまでとこれから』木戸口 幸人
- 『もりのじかん』伊藤 留美子
- 『祈り・世界平和』渡邊 裕子
- 『往きて還る』幅 若葉
- 『木憶』日比野 啓市
- 『紙組・輪』早崎 由起
- 『群』西井 涼馬(名古屋芸術大学)

### <小中学生部門>

- 『RE:BORN~裁ち端・楮芯に光を~』みうら かの
- 『おしゃれライオン』佐藤 暖真
- 『ありがとう侍JAPAN』酒井 心々
- 『釣られたハリセンボン』石原 俊太郎
- 『夏祭り』見山 未桜
- 『川鷺』各務 壮流
- 『PEACH』井上 和奏(美濃中学校)
- 『三角錐関係のバラ』澤村 魁里(美濃中学校)
- 『ball』市原 蒼龍(美濃中学校)
- 『ジュエリーキャット』山岡 詩織
- 『わたしのペット「クッキー」』市原 ほの香
- 『カラフル紫陽花』宮坂 莉未